

おもむきことがあさ
朝あさううたが流れてい

夏なつもちかすく 人十八に夜よ

野のにも 山やまにも 若葉わかばがしげ

あれに見えよは 茶ちのふでをわか

赤根あかねがすき 山やまの笠かさ

お茶ちのニーズとちりだ

たしか「ちり」のカタロガレ ち茶ちがうてい

あうた

採茶ちせ入り 知らん茶ち「う」にツグ

だれもお茶をうせ 送るにとあま

ところが最近 お茶のかわり食后しょくごに「こ」

ちのち人かかなり りるとか

このころ ちかうと日ひにがあるうい

私の道みちの所ところは 皆みなお茶ちだ

毎まい人ひとしに

最近 知しるうら ちて物があ

おト「フ」ハニに「が」 テ「コ」イナリ

工夫くふうされはも「か」あるも「の」 す「こ」カタロガ

か「り」存ぞんん「あ」り 注しゆ文ぶん出しゅ来らいるく「る」

今妹が子より

おしこの場所がなくて今日のおしこの

ことおし

お自身と井川とあり

おがさういさ日か

おきていさおは

お一人の妹少しお

おの志業のことお食品を

おさういさお

2026
3/30